

学校だより

よく考え 励まし合って やりぬく子

よく考える子

励まし合う子

やりぬく子

TEL : 69-2029 FAX : 69-4448 HP-URL : <http://www.tanpopo.ne.jp/~ohyabu/index.htm>



身に付けた知識を活用し、思考を進めていける子の育成

11月15日、1年2組において授業公開・全校研究会を行いました。「くり下がりのあるひき算」の単元です。

大藪小学校では、上記のように「身に付けた知識を活用し、思考を進めていける子」の育成を目指しています。その大前提として、まずは「全員が問題の意味を理解する。」ことが大切です。そこで、低・中学年では「身振り・手振りて表現する活動」を取り入れています。



「9人かえりました。」という身振りをする児童

左の写真は「こうえんに13人いました。9人かえりました。」と話しながら、「9人」を遠ざけているところです。だから全員が「この問題は、ひき算だ。」と気付くことができます。式は $13 - 9$ です。

次に、個人でブロック操作をして、答えがいくつになるか考えます。どの子の答えも「4」になるのですが、考え方（思考）は2種類あります。教師は「誰が、どちらの考え方をしているか。」を把握した後、挙手発言させます。

今回の場合、13のブロックを「10のまとまり」と「3のバラ」に分けた後、

- ①「バラの3から9は引けないので、まず3を引いておいて、残りの6を10のまとまりから引いて、答えは4」という児童と、
- ②「バラの3から9は引けないので、10のまとまりから9を引いて1、1とバラの3を合わせて、答えは4」という児童が出現します。

教師は意図的に①の児童と②の児童を指名して、黒板のブロックを使って説明させます。



「9は6と3だから、まず3を引いて、つぎに……」

今回は②の方法でやってみようという方向付けた後、ここからが重要です。

かつては、教師が「みんな、わかった？」と聞き、何人かの児童が「はい。」と返事をしただけで「じゃあ次に行きます。」と進んでいました。

大藪小では、その説明を「全員ができる」ようにするために、右の写真のように隣の子どうして、繰り返し説明をし合います。（ペア交流）

これにより全員が「できた！」と実感できます。さらに、「これができればOK！」という練習問題を行い、全員ができたかをチェックします。



「どう？」「それで合ってます。」

来年度は、このような授業を「輪之内町教育研究大会」として発表します。たくさんのお客様や先生方でいっぱいになります。保護者の方々の参観もできるようにしたいと考えています。ご理解とご協力をお願いいたします。

文責 校長 小椋英吏